

バンクーバー島カウチンバレー地区における農村観光の構造

兼子 純*・菊地俊夫**・田林 明***・
仁平尊明****・トム・ワルデチュック*****

*愛媛大学法文学部, **首都大学東京都市環境科学研究科, ***筑波大学名誉教授,
****北海道大学文学研究科, *****トンブソンリバーズ大学文学部

本研究は、カナダ・ブリティッシュコロンビア州バンクーバー島のカウチンバレー地区を対象として、その農業生産と観光資源の構成と結びつきの分析を通じて、地域資源を活かした農村観光の構造を明らかにした。対象地域を含むバンクーバー島は、州都のビクトリアを除けば島全体の人口が希薄で、経済的な活動としては伝統的な林業や農業に依拠するやや停滞した農村であった。しかし、カナダの中では比較的温暖な気候条件に加えて、農村の価値が見直されるようになると、先駆的な農業の取り組みへの参入者が増加するようになった。これらの新しい農業として、本研究では地元産の農産物を使用した農家レストラン、水牛を導入したアグリツーリズムの事例を分析し、農業と地域コミュニティ、観光とが結びついている構造を明らかにした。こうした結合関係はファーマーズ・マーケットやスローシティというこの地域の特徴を示す取り組みとして表出し、これらは地域の伝統文化と結びついて当地を農村空間の商品化へと導いている。これらの農業と観光の要素は、生産者や住民、観光客など農村地域の価値を見直し活動しようとする多様な要素が個別に結びつくことにより、この地域の魅力を高めてきた。

キーワード：農村観光、ファーマーズ・マーケット、スローシティ、ローカル、バンクーバー島

I はじめに

20世紀以降の大量生産・大量流通・大量消費の流れは、世界各地でさまざまな功罪をもたらしてきた。マス・マーケティングの普及により、われわれは日常安定的に、安価に商品を手入れできるようになった。他社に対する競争力を高めるために、生産者も流通業者もスケールメリットを確保することが重視されるようになった。その結果として、食料流通の場合、農産物生産と食料消費を連結する鎖は世界的なスケールでますます長大になり、誰もその全体像を見渡すことができなくなっている。荒木（2007）は、この状況を消費者にとって自ら消費する食料の生産履歴が見えなくなっていることだと指摘し、その結果、食品という商品に対しての評価や判断を下す際に、公的機関の認証基準や企業広告、あるいはマスコミから

与えられる情報に依存せざるを得ない状況に置かれていると述べている。上記の荒木の研究では、既存の商品連鎖の研究がマクロレベルの議論を中心としているのに対して、個人や地場の店舗、市場、あるいは地域に固有の習慣や技術などのローカルレベルのアクターに着目したフードネットワーク論の概念を整理している。これに関連して、例えば伊賀（2007）は、味噌供給ネットワークをフードネットワーク論の視点から分析し、原料の質の構築過程を考察した。

上記のようにローカルレベルでの小規模な流通、もしくは生産者と消費者間のダイレクト・マーケティングの重要性が、その土地の自然条件や位置関係、歴史的・文化的背景、産業構造などの地域の文脈で検討されることが必要であり、こうした動きに食料の生産の場として機能してきた農村地域はどのように対応していくべきであろう

か。田林（2013）が述べるように、多くの先進国では生産主義的な観点から農村空間の商品化が進められてきたのに対し、今後消費の場として農村空間が商品化されるのであれば、生産と消費が質を伴って地域内で有機的に結びつくことが重要であろう。消費活動が盛んになる農村空間の商品化を分析するには、その変化により柔軟に対応できる新興の農村地域の事例研究が必要であろう。

そこで本研究は、カナダ・ブリティッシュコロンビア州バンクーバー島のカウチンバレー地区を対象として、その農業生産と観光資源の構成と結びつきの分析を通じて、地域資源を活かした農村観光の構造を明らかにすることを目的とする。

本研究では、上記の構造を明らかにするために、聞き取り調査を実施した。聞き取り先は、ブリティッシュコロンビア州Ministry of Agricultureの各部署、カウチン経済開発局、および現地の農場とダンカン・ファーマーズ・マーケットの主催者である。現地調査は2014年9月と2015年6月、2016年9月に実施した。以下、Ⅱ章では本研究の対象地域であるバンクーバー島およびカウチンバレー地区の概要を示すとともに、農業と観光の特徴について述べる。Ⅲ章ではカウチンバレー地区の農業と観光の結びつきを具現化する各地域の取り組み事例を分析する。

Ⅱ バンクーバー島およびカウチンバレー地区の概要と特徴

本章では、バンクーバー島と本研究の対象地域であるカウチンバレー地区の概要と特徴について明らかにする。

1. バンクーバー島の概要

まず、カウチンバレー地区が位置するバンクーバー島は、ブリティッシュコロンビア州の南西端に位置する（図1）。同島は、西側を太平洋に面し、

北側をジョンストーン海峡、南東側をジョージア海峡を挟んでブリティッシュコロンビア州本土と向かい合い、南のファン・デ・フカ海峡でアメリカ合衆国（オリンピック半島）の国境と接する。総面積は31,285km²で日本の四国の約1.7倍あるが、北西－南東方向で約450km、幅120kmと細長い形状をしている島である。

島の名称は、18世紀にカナダ西岸地域の測量を行ったジョン・バンクーバーに由来するが、人口230万の大都市バンクーバー市は、この島ではなくアメリカ大陸側に位置する。細長い島の中央部を横断する山脈は標高600～1,200mで、広義のコースト山脈の一部を構成し、最高点は島の中央部に位置するゴールデン・ハイデン山の2,195mである。その東西を分断する山脈のため、島の東部では雨陰効果があり、島の西部は東部よりも湿潤である。気候自体はカナダの中では比較的温暖である¹⁾。

島全体の人口は2012年で764,396であるが、2000年以降一貫して増加を続けている。主要都市は島の南東部に集まっており、ブリティッシュコロンビア州の州都であるビクトリア（人口：約34万）は島の南東端に位置する。他の主要都市として、南からダンカン、ナナイモ、キャンベル・リバー、ポート・アルバーニ、ポート・ハーディなどがあり、これらの都市のいくつかは定期航路でブリティッシュコロンビア州本土と結ばれている。このように、島と本土との主な交通手段はフェリーで、バンクーバーの南北に位置するトゥワッサン港やホースシュー・ベイ港とを結んでおり、長距離バスであればバンクーバー中心部から直接ビクトリアへ行くことができる。飛行機がバンクーバー国際空港から島の各都市を結ぶが、ビクトリア以外は小型飛行機である。主要道路はビクトリアからナナイモに至るトランス・カナダ・ハイウエーで、島の南東部海岸沿いを走る。

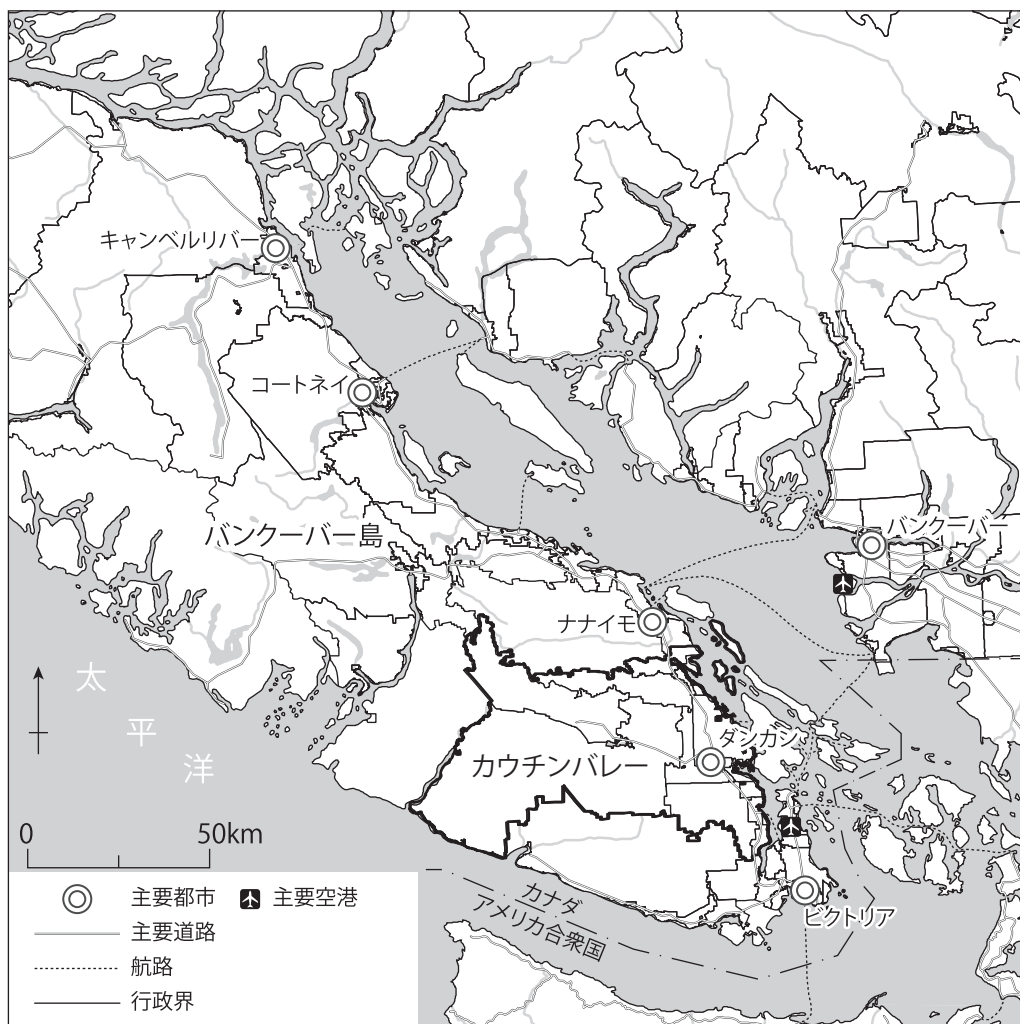


図1 研究対象地域

島の主要産業は元々林業で、製材や木材加工であるとともに、港湾部は木材の搬出で賑わいを見せた。農業は島東部の海岸平野に集中し、酪農、果樹・野菜栽培が行われるとともに、四方を海に囲まれているため漁業も盛んである。州都のビクトリアではイギリス植民地時代の遺産を活かした都市観光が盛んであるが、他の地域は豊かな自然を楽しむアクティビティが多く存在する。四方を海に囲まれているためホエールウォッチングやシャチウォッチング、フィッシングやシーカヤッ

クなどの海洋レジャーを楽しむことができる他、登山やハイキングなどの山岳レジャーも豊富である。地方都市では、有名なソルトスプリング島のサタデーマーケットに代表される屋外マーケットが各地で開催され、本研究で対象とする農村空間の商品化が進行している地域でもある（Halpern and Mitchell, 2011）。後述するダンカンでのトーテムポールや、シュメイナスの壁画など、都市内観光の素材も豊富である。

2. カウチンバレー地区の概要と特徴

本研究で対象とするカウチンバレー地区（Cowichan Valley Regional District）はバンクーバー島の南東部、州都ビクトリアの北、ナナイモの南に位置する面積3,493km²の行政体である。地区の東部は南ガルフ諸島の一部を含み、西部は太平洋に面する。地区の西部は標高1,000mを超える山岳地帯で、その中央部に東西に細長いカウチン湖が位置している。そのカウチン湖からカウチン川が流れ出し、下流部のダンカン周辺で平野を作りカウチン湾へと至る。平野は東部海岸地域に集中しており、西部は農業に適さない地形である。

地名の由来は諸説あるが、当地をファーストネーションの言葉で「The Warm Land」とする説がある。このようにカウチンバレー地区はカナダで唯一地中海性気候帯に属する温暖な地域である。人口の集中する地域の東部は冷涼な地中海性と海洋性の遷移気候帯で、中心都市のダンカンにおける7月の平均最高気温は25.2℃で、平均最低気温は11.6℃である。カウチン川の河口に位置するカウチンベイにおける7月の平均最高気温は22.2℃、平均最低気温は12.5℃である。地中海性気候であるため、11月から4月にかけて多雨であるが、夏期は灌漑が必要なほど乾燥する。

カウチンバレー地区は四つの自治体と四つのサブリージョンから構成される。地区の中心都市はダンカンで、ビクトリアからナナイモに通じる

トランス・ナショナル・ハイウェイ上に位置し、2011年の人口は4,932である。幹線道路沿いにはショッピングセンターやレストラン、バスターミナルがある。町の中心は旧鉄道駅を中心とした範囲で、市庁舎前には広場があり後述するファーマーズ・マーケットが開催される。中心部の景観的な特徴は、40本を超えるトーテムポールが林立していることで、これらを巡るツアーもある。ダンカンの北部にはレディスミス（人口7,932）、ノース・カウチン（同28,807）があり、西部にはレイク・カウチン（同3,159）がある。四つのサブリージョンの中で、本研究で取り上げるカウチンベイはダンカンの南西部の海岸沿いに位置する集落である。

地域の主要産業は従来林業であったが、近年では小売業、医療、建設、行政が主な経済的基盤である。しかし最大の産業部門ではないものの、近年農業が地区の経済的成長を支える可能性がある分野として期待されている。カウチン地域経済開発局は2010年に包括的な地域農業計画を策定し、将来的に地域内で自給食料生産を45%まで高めることを目標として掲げている。2011年の地区の「持続的経済開発戦略」では、重要な目標として「繁栄する多様な農業」を掲げている。農業の主要な指標をみると（表1）、地区全体の農家数は2001年に691、2006年に700、2011年に685と横ばいで推移している。しかし農地面積は2001年の13,996haから2011年の10,837haへと大幅に

表1 カウチンバレー地区農業の推移

	1986	1991	1996	2001	2006	2011
農地面積 (ha)	17,261	18,628	13,656	13,996	11,559	10,837
農家数	554	594	772	691	700	685
平均農地面積 (ha)	31.2	30.8	17.7	20.3	16.5	15.8

(Statistics Canada census of Agricultureにより作成)

減少している。地区の農家規模は縮小傾向にあり、2011年の農家数の40%は4ha未満で、46%は4～28haの規模であった。一方で少数の大規模経営体が農業販売額の大部分を占めており、2006年の指標では、83の大規模農家で地区全体の農業販売額の83%を占めていた。地区全体で見ると、畜産業は衰退傾向にあり、酪農、養鶏、温室野菜、野菜やベリーワイン用ブドウなどの園芸作物を組み合わせた多様で複合的な農家経営が見られる。このように特定の作物に特化するのではなく、多様なタイプや規模の農家経営がこの地区の農業の特徴であり、これらの中には規模の小ささを克服するためにダイレクト・マーケティングに力を注ぐ経営体も少なくない（Climate Action Initiative, BC Agriculture & Food 2013）。

3. 観光化の進展

カウチンバレー地区は増加しているとは言え決して人口の集積する地区ではないが、前述の通りカナダで最も温暖であるという気候条件、山や海、湖が地区内に近接して存在するという自然環境、ビクトリアとナナイモの中間にあり、それぞれの都市から車でおよそ1時間という立地条件から、観光に力を入れている。海洋レジャーでは、ホエールウォッチングが有名で、カヤックや釣りなどを楽しむことができる。陸上でのアウトドアレジャーとして、ハイキングやサイクリングに適しているほか、キャンプやゴルフ施設なども点在している。カウチンベイなどのエリアでは、豊かな生態系を観察できるネイチャーセンターも整備されている。その他、後述するダンカンでのトーテムポールやシュメイナスの壁画の町など、歴史的資産を活用した都市観光も盛んである。

その中でこの地区を特色づけるものとして、多様な農業と観光の結びつきを指摘できる。地区の至る所で見られる「Local&Fresh」にあるように

地産地消にこだわった多様な農業を観光資源として位置づけている。この地区では気候条件を活かしたブドウ栽培によりワインツーリズムが有名で、ワインルートが形成されている（菊地ほか、2016）。ワインツーリズムは近年バンクーバー島全体で盛んになってきているが、特にカウチンバレー地区に集中している。ツアーに参加してその土地での農業生産の意義を学ぶ体験型・学習型の観光農園では、農業体験だけでなく地元産品を使用したレストランや土産物販売に加えて、宿泊機能やウェディングプランを提供するものもある。これらは農産物を消費者が単純に収穫するだけでなく、土地に根ざした農業の意味を問うという教育・学習効果を有している。

上記の他に農家と消費者が直接結びつく場として、カウチンバレー地区全体でファーマーズ・マーケットが開催されている。ファーマーズ・マーケットは地域の農業生産者と消費者が直接結びつく場として近年注目されているが、当地区では人口規模に比してその開催が盛んである。後述するように、地元で生産された安心・安全な農産物を地元で消費するというスローフード運動を体現するものとして、カウチンベイがイタリア発祥の国際組織であるスローシティ“Citta Slow（チッタスロウ）”の認定を受けている。

上記のように、カウチンバレー地区では恵まれた自然条件の下、多様な農業が展開され、それらを観光に結びつける動きが盛んである。Ⅲ章では、これら特徴ある農業と観光の結びつきについて、いくつかの事例を分析していきたい。

Ⅲ 特徴のある農業と観光の結びつき

1. 特徴的な農場の分布

先述の通り、カウチンバレー地区の西部は山間地で人口分布も稀少であり、農業にも不適である。一方で主要道路の走る東部地区はなだらかな

丘陵地帯であり、多種多様な農業が展開し、それぞれの特徴を活かした農業と観光の結びつき

が見られる。図2はNPO法人のCowichan Green Communityが発行するフードマップにより作成

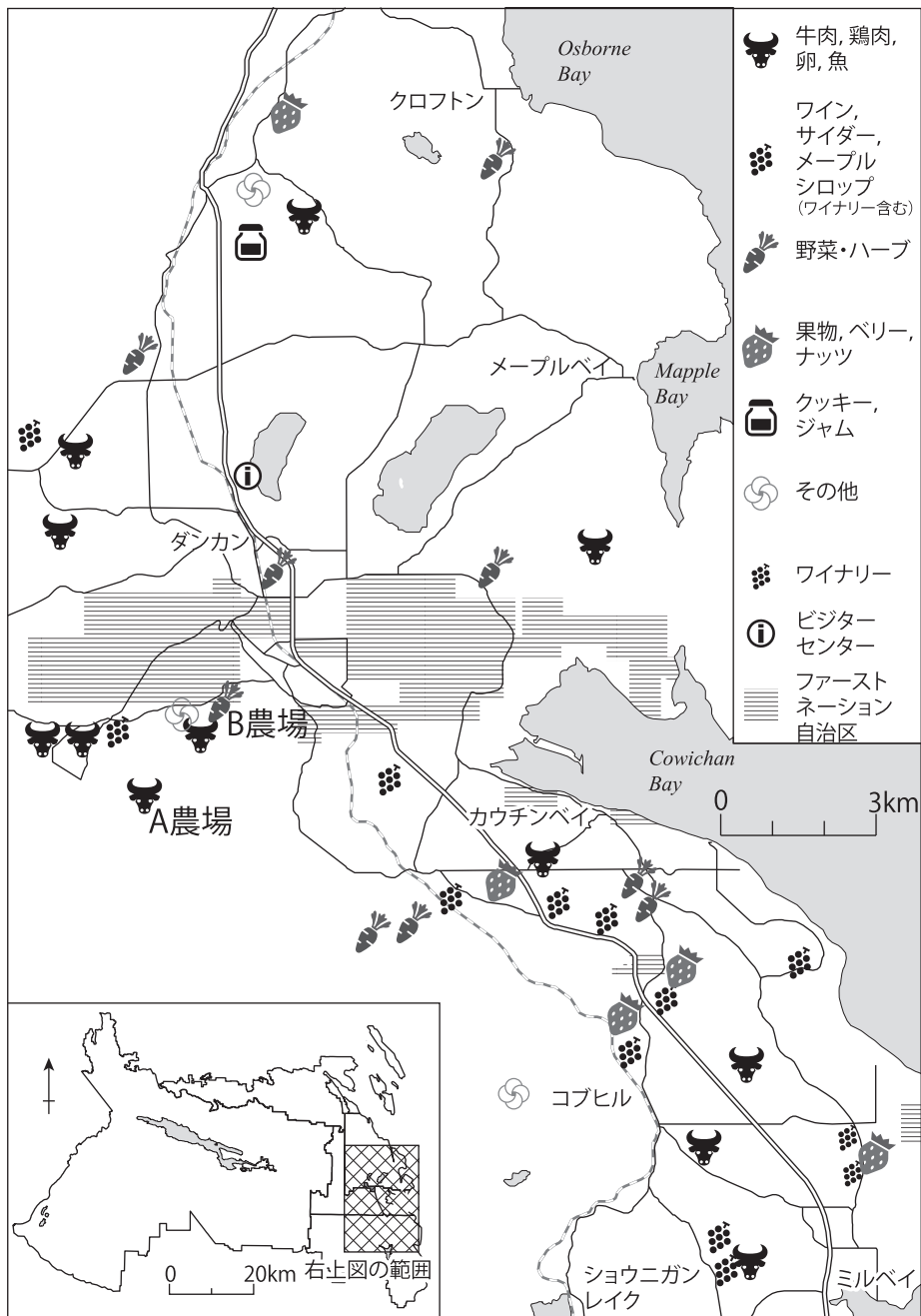


図2 カウチンバレー地区中央部の概観図

(Cowichan Green Community フードマップにより作成)

したもので、カウチンバレー地区で地元食材を購入できる、もしくはそれらを使用した料理等を提供する農場の分布を示したものである。原図には各農場等の情報として、所在地、連絡先、一次産品、販売方針、農場で生産される加工品、開場時間などが示されている。

主要産品ごとの分布の特徴をみると、ダンカン西部の丘陵地や南部のコブヒルといった丘陵地では畜産関係の農場が集まっていることがわかる。トランス・カナダ・ハイウエー沿いには果樹や野菜といった高付加価値で比較的集約的な農場が分布するとともに、菊地ほか（2016）で示されたワイナリーも集中する。数としては1件のみであるが、紅茶の茶園がダンカンの北に位置する。ここで生産された紅茶は、カウチンバレー地区のレストラン等で提供されている。

各農場で加工された農業生産物は、域外に流通するものもあるが、主に地区内にあるファームマーケットで入手することができる。ファームマーケットはローカル食材を中心に扱う現代的な食料雑貨品店であり、主にトランス・カナダ・ハイウエー沿いに立地している。

2. 中心都市ダンカンにおける観光とファーマーズ・マーケットの展開

カウチンバレー地区の中心都市ダンカンは人口規模は小さいものの、地区内での中心性は高く、都市機能が狭い範囲に集中し、歴史的な文化資源や本研究で対象とする農業と観光の結節点として重要な場である。ここではダンカンの概要と、トーテムポールを利用した観光、そしてこの地で開催されるファーマーズ・マーケットの役割について分析する。

ダンカンの地は、イギリスの植民地時代以前からファーストネーションが暮らす土地であった。カウチンバレー地区では海岸沿いのメープルベイ

などが交通上の中心地であったが、1887年の鉄道開通とダンカン駅の開設により、内陸に位置するダンカンが地区の中心都市となった。中国人移民の鉱山労働者が町の中心部に小規模なチャイナタウンを形成していたが、現在では存在せずモニュメントが設置されている。鉄道は現在休止中である。

上記の通り、ダンカンではファーストネーションの存在が重要であり、「トーテムのまち（The City of Totems）」として知られている。約200m四方の狭い中心部に37体（市全体では40体）のトーテムポールが設置されている（図3）。休止中の駅舎を活用したミュージアムを拠点として、トーテムポールを見学するセルフツアーが準備されるなど、この都市が持つ歴史性を観光で強調している（図4）。市内のフリーマップにはトーテムポールの位置が明示されるとともに歩道上にはルートを示す足形があるので、参加者はこれらに従って徒歩で中心部を観光することができる（図5）。

ダンカンの商業施設として、中心部の約500m東側を走る幹線道路のトランス・カナダ・ハイウエー沿いに大規模な駐車場を備えたいわゆるロードサイド型の大型商業施設が多数分布している。これらの商業施設は全国資本のスーパーマーケットやドラッグストア、グローバル展開するファストフード店が中心である。その一方で中心部には、小規模なブティックや書店、アンティークショップが立地している。これらに加えて、カフェやレストラン、パブなどの飲食店も20店以上中心部にあり、都市の規模に比して多数の店舗集積が認められ、市としても”Small Town Big Taste”のフラッグを掲げて中心部への飲食店への集客を促している（図3、図6）。ロードサイドに立地する店舗と違って、こうした中心部に立地する飲食店では、地元食材を使ったメニューを提

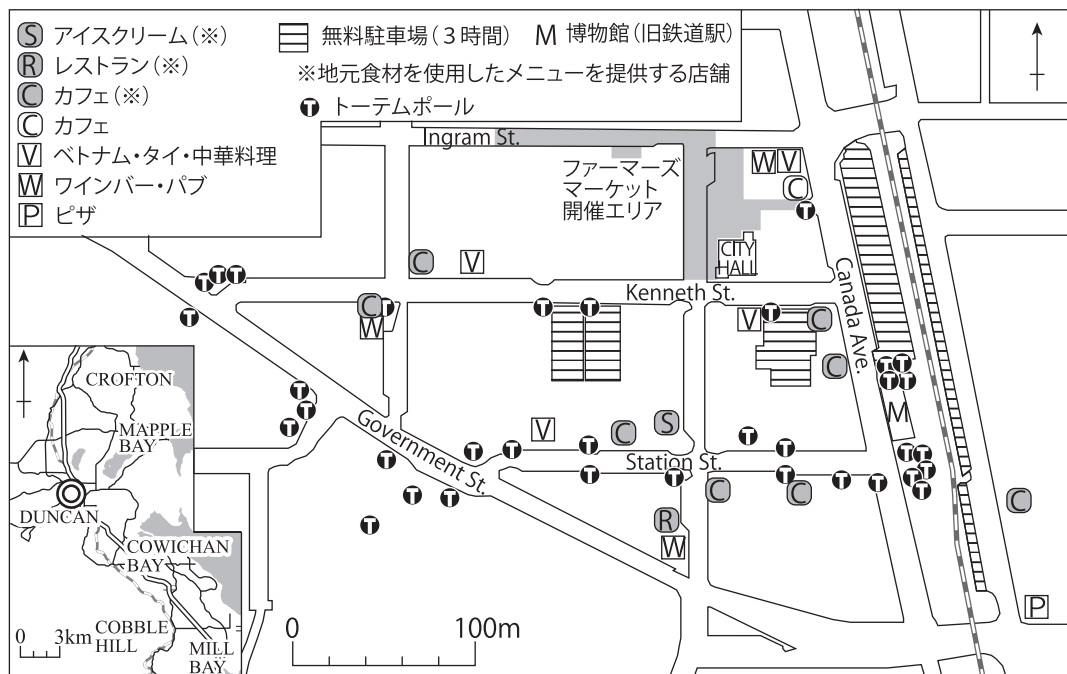


図3 ダンカン中心部のトーテムポールと飲食店の分布(2016年)

(現地調査により作成)



図4 ダンカン中心部におけるトーテムポール

(2014年9月兼子撮影)

供するものも少なくない。

ダンカンの中心部において、農業と観光の関わりを象徴する取り組みとして、ファーマーズ・マーケットの開催が挙げられる。ファーマーズ・マーケットはファーム・ダイレクト・マーケティングなどとともプリティッシュコロンビア州の



図5 トーテムポールのセルフツアー
路上の足形はルートを示している。

(2014年9月兼子撮影)



図6 ダンカン中心部における飲食店を宣伝するフラッグ

(2016年9月兼子撮影)

農村空間の商品化の典型的な事例として位置づけられ（仁平ほか，2016），バンクーバー島でも各所で開催されている。

ダンカン・ファーマーズ・マーケットは，毎週土曜日にダンカン中心部の市庁舎前広場とその周辺道路で開催される非常設のマーケットである（図7）。開催時期は通年で，春と夏は午前9時から午後2時まで，秋と冬は午前10時から午後2時の間で開かれる。出店は登録制で2016年現在の



図7 ダンカン・ファーマーズ・マーケットの様子
(2015年6月兼子撮影)

登録者数は177である。出店登録者の販売品目をみると（表2），専門食品・加工食品が多く，ソーセージやサラミなどの食肉加工品，チーズ，パスタ，コーヒーなどが販売されている。焼き菓子やジャム・ゼリーなども多い。生鮮食料品は30あり，野菜や果物，卵などを扱っている。酒類販売は七つあるが，そのほとんどは菊地ほか（2016）で明らかにされたカウチンバレー地区のワイン産地を構成する出店者である。食料品以外では，宝飾品や工芸品などの小物・アクセサリやニットなどの縫製品，木工品，陶磁器，芸術写真など地元芸術家による商品や作品が多い。ケア用品の出店者では，ヤギのミルクを使用した石鹸販売など，地元産原料にこだわりデザインも洗練された商品を扱っている。一方で，日本のマーケットで目立つ屋台等の調理品販売店は少ない。

同じ表2から登録者の所在地をみると，全登録者の約40%がダンカンで，カウチンバレー地区全体では76%を占める。生鮮食料品を扱う登録者は鮮度を重視するため，マーケットが開かれるダンカンからの出店が約半数を占める。ナナイモおよびその北部からの登録者も26あるが，ナナイモでもファーマーズ・マーケットが開催されるため，曜日の重複しないマーケット間での相互出店があるものと推察される。カウチンバレー地区の東部に浮かぶソルトスプリング島のファーマーズ・マーケットも有名であるが，このマーケットも土曜日開催であることから，同島からの登録者はわずかである。

2015年6月に実施した現地調査では，当日120店ほどの出店があった（図8）。出店場所は市庁舎北側の広場を中心に，広場の西側の南北道路沿いと，広場北側を東西に走るIngram通り沿いに100mほど店舗が連なっている。広場以外の道路は，通常自動車が通行する通りであるが開催時間帯には歩行者専用となる。市庁舎前の広場にはス

表2 ダンカン・ファーマーズ・マーケット登録者の販売品目と所在地（2016年）

	カウチンバレー地区								ナナイモ	コートネイ	ポータルバーニ	ソルトスプリング島	ビクトリア	不明	合計
	ダンカン	ノースカウチン	ミルベイ	レデイスミス	カウチンベイ	コプヒル	ショウニガン	レイクカウチン							
専門食品・加工食品	11	1	2	1	1	1	1	2	8		1		3	1	33
焼き菓子	6	2	1			2							1	1	13
ジャム・ゼリー	1	1			1				2						5
農産物	14	3	1		2	3		1	5			1			30
酒類販売	3		2			2									7
園芸商品	7	1	1			1			1						11
宝飾品	5		1			1			1			1	3	2	14
工芸品	5	1	1			1		2	1	1					12
木工品	4	1		2	1	1	1	3	1						14
ペット用品						1							1		2
芸術写真	3		1	1											5
陶磁器	2								1				1		4
縫製品	3	1		1		1		1	3				2		12
ケア商品	2				1	1	1		1						6
屋台	6						2	1							9
合計	61	11	8	4	5	14	4	8	24	1	0	2	11	3	144

(ダンカン・ファーマーズ・マーケットのウェブサイトにより作成)

テージがあり、マーケット開催当日にはさまざまなイベントが催される。各店舗の位置について、販売品目による集中は特に見られず、さまざまな業種が混在して出店している。

出店者の一つであるコーヒー豆販売店は、ダンカン北部のコーヒー豆焙煎業者である。コーヒー豆はバンクーバー島で生産されていないが、フェアトレードを重視した有機栽培のコーヒー豆を扱い、ダンカンでの焙煎にこだわった商品を販売している新興の業者である。商品の販売先は、このファーマーズ・マーケットのほか、ダンカンやカウチンバレー地区のファームストアやレストラン、カフェ等で、後述するカウチンベイのスロー

シティを構成するカフェでも提供されている。

同ファーマーズ・マーケットの主催者は、野菜販売を行う30代の農業経営者であるが、彼によると今から15年ほど前にこのマーケットを始め年々出店者や顧客が増加してきているという。ファーマーズ・マーケットの持つ長所として、顧客側は新鮮な食料品を近在の生産者から直接購入できるとともに、栽培方法といった商品情報を確認できるという長所がある。生産者側には、消費者のニーズを直接確認できるとともに、生産上でのこだわりを直接説明することが可能になる（中村、2016）。上述のコーヒー豆焙煎業者のほかにも、ワイナリーや紅茶生産者では、ファーマー

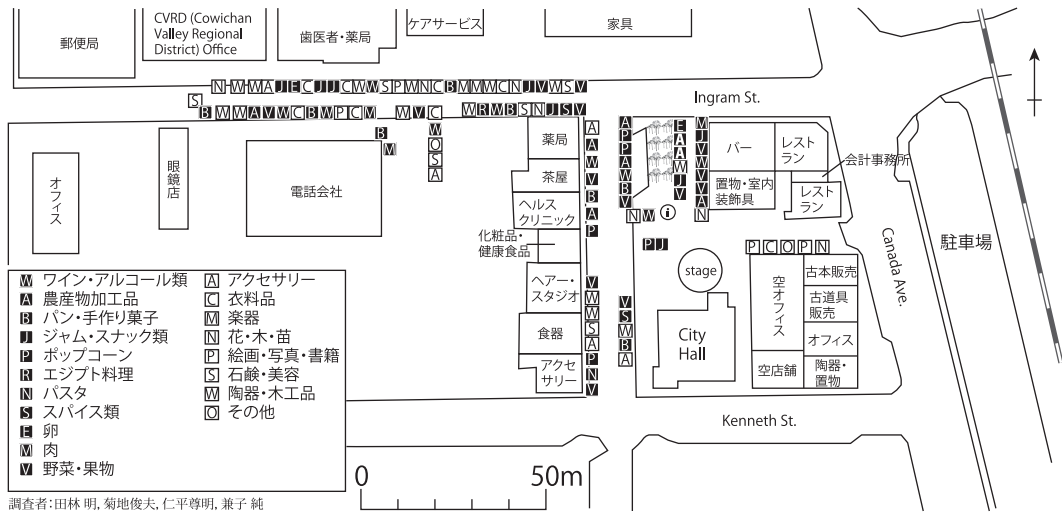


図8 ダンカン・ファーマーズ・マーケットにおける出店分布

(2015年6月14日(土)の出店状況を現地調査により作成)

ズ・マーケットが自社の製品を域内でブランド化して流通させる拠点の役割を担っている。工芸品などの非食料品出店者の多くはカウチンバレー地区に在住して、地域内の素材を使用し、地域の歴史性を前面に出した作品を出店している。このように2000年代以降ファーマーズ・マーケットを介して、生産者と消費者が直接結びつく場が提供されるとともに、有名になることで域外からの観光客を惹きつけることができる好循環を生み出している。

3. アグリツーリズムの取り組み

前節では、農業と観光を結びつける拠点として、カウチンバレー地区の中心都市ダンカンの事例を取り上げた。本節では、カウチンバレー地区内の各地で農業と観光を結びつけているアグリツーリズムの事例を分析する。

1) 水牛農家の事例

一つ目の事例として、水牛農場を営むA農場の事例を取り上げる。A農場はダンカン中心部の南

約5km、標高約100mの丘陵地帯に位置する。当地への入植は1880年代から始まり、第二次世界大戦後に森林会社への売却などを経て、1954年に現経営者一族が土地を購入した。当初は馬のレンタル業や子ども向けのサマーキャンプを開催していたが、1980年代に息子夫妻が混合農業とゲストハウスへと経営を転換した。

A農場の大きな転換点として、2000年にカナダで最初となる水牛をデンマークから18頭輸入したことが挙げられる。2005年に酪農の専業となり、敷地内のゲストハウスはシェフであった人物に経営委託した。水牛による酪農経営を始めた理由について、イギリスの水牛酪農を訪問したことがきっかけであり、水牛による酪農のメリットとして、水牛は羊やヤギと同様に生乳生産の数量規制を受けないこと、比較的健康で耐病性があること、水牛の生乳成分にはカルシウムやプロテインが多く含まれ、牛乳よりコレステロールが低いことが挙げられる。

バンクーバー島中部コモックスバレーのコート

ニーにある手造りチーズメーカーと、A農場は専属提携している。A農場における水牛の生乳は、このチーズメーカーとの契約で製品化され販売される。生産される商品は主にモッツァレラチーズで、ブリティッシュコロンビア州を中心としたカナダ国内の小売店で販売されている。

A農場を先駆者として、現在バンクーバー島には二つの新規水牛酪農があり、そのうちの一つは上記チーズメーカーへ生乳を供給予定である。A農場では、将来的に水牛の生乳によるヨーグルトやアイスクリームなどの商品開発が進むことを期待して、これらの動きを歓迎している。

酪農と並ぶA農場の取り組みの柱の一つが、ゲストハウス経営である。部屋数は6部屋で、朝食付きである。ゲストハウスでは2泊以上のみの宿泊を受け入れているように、ゲストに農村空間を満喫してもらうことを意図している。ゲストハウスではたびたび結婚式も開催される。

A農場によるアグリツーリズムとして、夏季を中心に不定期のファームツアーを開催している。A農場では、予約なしの見学やセルフツアーなどは受け入れていない。最低開催人数は10名で、参加費は一人10ドル²⁾、畜舎や生乳加工過程などを解説付きで見学できる。見学終了後には最終製品のモッツァレラチーズ等の試食ができる。ツアーの参加者は多様であるが、筆者らが聞き取り調査を実施した当日（2015年6月）のツアーでは、ダンカンやビクトリアなどバンクーバー島、ブリティッシュコロンビア州本土、アメリカ合衆国からの参加者があり、グループ構成も家族や夫婦での参加があった。

このようにA農場での取り組みでは、カナダで最初の水牛酪農という特徴を活かして、チーズによる地産地消、ゲストハウスやファームツアーの開催を通じたカウチンバレー地区の都市－農村間の農村観光の魅力を高めている。

2) 農家レストランの事例

B農場はダンカン中心部の南西約3kmの丘陵地帯に位置する。2003年に現経営者夫妻が、輪作や堆肥化、間作を含む多様な持続的技術を用いて、人工的な農薬や化学肥料を用いない農業形態であるバイオダイナミック農法による農場を始めた（Cowichan Green Community, 2016）。

B農場の特徴として、CSAプログラムを通して生産物を販売していることが挙げられる。CSAプログラムとは、“Community Supported Agriculture”（地域密着型農業）のことで、共通の形態として前払い分配制度で、1年間供給を受ける農作物の前払い金として、「シェア（会員）」という単位を購入することによって、「シェア・ホルダー」となり、その農場の支持者となりうる。CSAにおけるローカルフード流通の経済モデルは、食料生産におけるリスクと利益を消費者と生産者がシェアすることにある。B農場のCSAプログラムは、カウチンバレー地区の先駆的な取り組みの一つであるが、その優位性として、農場が地域コミュニティから直接サポートを受けることができることを指摘できる。

B農場におけるCSAプログラムについて、シェアの購入単位は24週間、シェアを購入したシェア・ホルダーは毎週金曜日から日曜日にかけての週末にB農場で自ら農産物を収穫する権利を得る。シェアの購入金額は家族規模によって違いがあり、1～2人用の個人会員は5～7種類の農産物を収穫でき、年会費は325ドルである。以下同様に、2～4人用の小家族会員で6～9種類の農産物に対して年会費450ドル、4～6用の大家族会員で7～11種類の農産物に対して年会費625ドルである。会員数は約200であり、農場としてはこの方式を採用することで直接会うことのできる消費者（住民）に販売したいという希望を持つ。収穫できる農産物として、春はブロッコリー、ニンジン、

ラディッシュ、ハクサイ、カブ、ビート、レタス、ホウレンソウ、チャード、ケール、タマネギ、パセリ、ハーブである。夏はブロッコリー、レタス、サヤマメ、ビート、キュウリ、ズッキーニ、チャード、バジル、トマト、ジャガイモ、セロリ、ハーブであって、秋はレタス、ホウレンソウ、ニンジン、ダイコン、ビート、ジャガイモ、キュウリ、パセリ、ニホンカボチャ、ケール、ニンニク、カブ、芽キャベツである。

上記のように多くの会員が毎週末直接B農場を訪れて収穫をするが、CPAプログラムにおけるB農場と会員のための拠点として、農場内には納屋を改装して作られたカフェが併設されている。このカフェは経営者の妻が収穫にやってきた会員にスープを提供することをきっかけとして設置されたものであるが、現在では木曜日の夜および金曜日から日曜日の終日にかけて一般客向けにも営業している。メニューとしては、B農場で生産された野菜を使用したスープやサラダ、メインディッシュであり、毎週日曜日には釜オープンにより焼かれたピザが提供される。その他、ダンカンの地元ブリューワリーのローカルビールやカウチン

バレー地区産のワインや紅茶が販売されるなど、ローカルな結びつきを意識したメニューとなっている。

4. スローシティ：カウチンベイ

カウチンベイはダンカンの南東に位置する小村である。カウチンバレー地区のエリアDに位置し、北部にはカウチン川の河口および干潟が広がる。西部の境界はトランス・カナダ・ハイウエーである。カウチン川の河口からカウチン湾にそってカウチンベイロードが走っており、この通りが海岸線に接する地域に、後述するスローシティを体現する施設が集中しており、村の中心部となっている。海岸線沿いに平野はほとんどなく、全体として20～100mの丘陵地が広がっており、南部ではワイナリーや農場、住宅地が点在している。海岸線の中心部には、カウチンベイロードの北側に、小規模な専門店や海洋レジャーの拠点が集中している。

同中心部を現地調査した図9によると、通りの南側は10m程度の急崖となっており、施設や住居の分布は皆無である。湾に面した北側の土地利

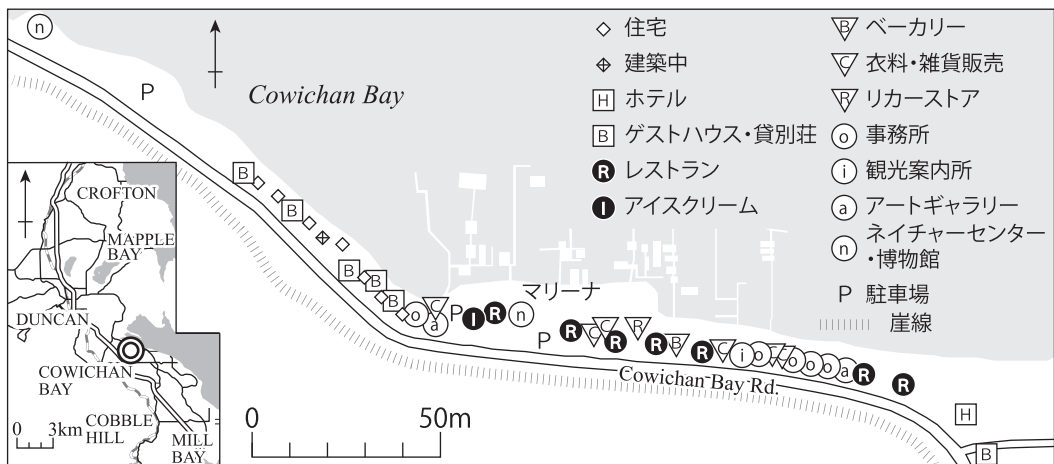


図9 カウチンベイ中心部の施設分布（2016年）

（現地調査により作成）

用についてみると、西の河口側に干潟の生態系を説明するネイチャーセンターが立地する公園とその駐車場があり、50mほど数件の住宅が続く。住宅の中には貸別荘やゲストハウスとなっている建物や、ボートハウスも点在する。続いて商業施設が分布し、特徴的な施設として伝統的な手造りアイスクリーム店、シーフードをはじめとする地元食材を使ったレストラン、ベーカリーなどのローカルフードを味わうことのできる店舗に加えて、地元在住の芸術家による雑貨店や衣料品店などがある。観光案内所やホエールウォッチングの事務所など海洋レジャーの拠点施設も複数ある。最東端にはオーシャンビューのホテルが立地している。同地域には上記のような狭い範囲に多数の店舗が集積しており、特に夏季にはこれらの諸施設に対して大変多くの観光客が訪れるが、平坦地が少ないため駐車場は少なく、繁忙期には通りの両側に多数の自動車が路上駐車をしている。

2009年にこのカウチンベイが、北アメリカで最初のスローシティ組織である“Citta Slow (チッタスロウ)”コミュニティに認定された。チッタスロウはイタリアにおけるスローフード運動から派生したもので、1999年に誕生した国際組織である（島村、2013）。人口5万人以下の小規模な町村が28カ国で指定され、地域の伝統や文化を守りつつ、ローカルな食文化を大切にする取り組みを行っている。

カナダでチッタスロウに指定されているのは、カウチンベイの他、同じブリティッシュコロンビア州オカナガンバレーのナラマタのみである。カウチンベイでのチッタスロウ会員資格は個人会員とコミュニティ会員、ビジネス会員の3種類で、年会費は個人とコミュニティが年20ドル、ビジネスが年50ドルである。会員は会合での投票権を持つとともにビジネス会員ではチッタスロウのロゴの使用権を得る。同組織は2009年8月に先述

したA農家、カウチンベイのチーズ生産・販売者、同地域のゲストハウス、ベーカリーなどによって枠組みが作られた。ローカルな文化や伝統に根ざすローカルフードやドリンク、生産物を生産するための伝統的で環境保護に有効な方法を促進している。これまでのビジネス会員として、観光関係、牧場（肉牛）、不動産、ホテル、レストラン、ワイナリー、ベーカリーなどの業種が挙げられる。

カウチンベイでのチッタスロウについて、同会の副会長に聞き取り調査を行った。同会を設立したのはカウチンベイ在住の商業者や農業者、個人など25名のメンバーである。上記の業種に加えて、ワイナリー経営者や教師や政治家、芸術家などで構成される。この副会長もそうであるように、新しい移民も多い地域であることから、コミュニティの形成が重要であると考え、スローシティの運動もカウチンベイにおけるコミュニティの確立を主眼としている。このように会の設立目的はコミュニティの維持であり、観光を含む経済的利益を求めてのことではないとのことである。カウチンベイの恵まれた自然環境を活かし、地域の農業や芸術、歴史を活かすためこれらローカルな文化や伝統に根ざす活動をしている。これらの活動は先述の海岸沿いにおける諸施設のサービスで顕著に理解できるが、組織では地産地消の食材によるパーティーの開催や食品廃棄物ゼロ運動などに取り組んでいる。

IV おわりに

本研究は、カナダ・ブリティッシュコロンビア州バンクーバー島のカウチンバレー地区を対象として、その農業生産と観光資源の構成と結びつきの分析を通じて、地域資源を活かした農村観光の構造を明らかにした。対象地域の位置するバンクーバー島は、州都のビクトリアを除けば島全体の人口が希薄で、経済的な活動としては伝統

的な林業や農業に依拠するやや停滞した農村であった。しかし、カナダでは比較的温暖な気候条件に加えて、農村の価値が見直されるようになると、先駆的な農業の取り組みへの参入者が増加するようになった。域外からの観光客が増加すると、トーテムポールに代表される元来からその土地の伝統文化に根ざした観光資源が再注目され、これら伝統文化と新しい農業、地元産の農産物を使用したレストラン、ファーマーズ・マーケットといった農業を中心とする結びつきが、カウチンバレー地区という農村空間を商品化へと導いている。

これらの農業と観光の要素の成立条件として、特にこの地区の自然条件が結びついていることも重要である。温暖な気候条件となだらかな地形は、この土地をブリティッシュコロンビア州オカナガンに続くカナダのワイン生産地域へと導いている。西部の山間地域は農業生産に適さないものの山岳レジャーや湖畔での滞在を楽しむことができ、東へ続く丘陵地帯では水牛農家や農家レストラン、ワイナリーの事例のように、付加価値のついた農業生産とアグリツーリズムを生み出してきた。東側を南北に走る幹線道路沿いでは、都市からの近接性を活かしてダンカンに見られるファーマーズ・マーケット、トーテムポールツアーをはじめとする都市観光が生み出され、地域の農業と地域住民、都市からの観光客との結節点となっている。東部の海岸地域ではスローシティに代表されるように、非日常型のゆっくりした時間を楽しむ観光や地域住民のための生活の場が提供されている。これらの諸地域と農業をはじめとする経済的要素、観光要素は個別に分散するものではなく、行政などの強い主体によって結びつけられるものでもない。当地域のさまざまな媒体のキャッチフレーズみられる **Local, Slow, Fresh, History** といったワードに代表されるように、生

産者や住民、観光客など農村地域の価値や伝統を見直し活動しようとする多様な要素が個別に結びつくことにより、この地域の魅力を高めてきたと言えるよう。

本研究では、カウチンバレー地区の代表的な取り組みを検討してきたが、農村空間を商品化する活動の一部を分析したに過ぎない。観光という側面では、ビクトリアやナナイモ、本土側のバンクーバーといった主要都市からの観光客の動向にも目を向ける必要があるだろう。これらは今後の課題としたい。

【付記】

本稿の骨子は、地理空間学会第21回例会（日本大学文理学部）において発表した。この報告のための現地調査において、平成26-28年度科学研究費補助金基盤研究(B)「カナダにおける農村空間の商品化による都市－農村共生システム構築の実証的研究」（研究代表者：田林 明、課題番号：26000032）による研究費の一部を使用した。

注

- 1) 例えばカナダ東部オンタリオ州の主要都市トロントでは、1月の平均最高気温が-0.7℃、最低気温が-6.7℃、7月の平均最高気温が26.6℃、最低気温が18.0℃と寒暖差があるのに対して、ブリティッシュコロンビア州ビクトリアでは、1月の平均最高気温が7.6℃、最低気温が1.5℃、7月の平均最高気温が22.4℃、最低気温が11.3℃である（いずれのデータも1981-2010年の平均値。Government of Canada ホームページ、<https://www.canada.ca/en/index.html>、最終閲覧日：2016年10月13日）。
- 2) 調査日の2015年6月14日のレート（1カナダドル＝82.4円）で824円。

文 献

- 荒木一視（2007）：商品連鎖と地理学－理論的検討－。人文地理，**59**，151-171。
- 伊賀聖屋（2007）：味噌供給ネットワークにおける原料農産物の質の構築。地理学評論，**80**，361-381。
- 菊地俊夫・兼子 純・田林 明・仁平尊明・トム・ワ

- ルデチュック (2016) : カナダ・ブリティッシュコロンビア州のバンクーバー島カウチンバレーにおけるワイナリーの発展にみる農村空間の商品化. 地理空間, 9, 115-129.
- 島村菜津 (2013) : 『スローシティ 世界の均質化と闘うイタリアの小さな町』 光文社.
- 田林 明編 (2013) : 『商品化する日本の農村空間』 農林統計出版.
- 中村 努 (2016) : 高知県高知市における街路市の展開と流通システムの空間特性. *E-journal GEO*, 11, 21-39.
- 仁平尊明・田林 明・菊地俊夫・兼子 純・トム・ワルデチュック (2016) : カナダ・ブリティッシュコロンビア州のローワーメインランド地域におけるファーム・ダイレクト・マーケティングの特徴. 地理空間, 9, 87-113.
- Climate Action Initiative, BC Agriculture & Food (2013) : Regional Adaptation Strategies – Cowichan (full report). <http://www.bcagclimateaction.ca/wp/wp-content/media/RegionalStrategies-Cowichan.pdf> [Cited 2016/09/30].
- Cowichan Green Community (2016) : Growing Connections: a handbook for purchasers & farmers in the Cowichan Region. <http://cowichangreencommunity.org/wp-content/uploads/2014/05/Growing-Connection-Handbook.pdf> [Cited 2016/09/30].
- Halpern, C. and Mitchell, C. (2011) : Can a preservationist ideology halt the process of creative destruction? Evidence from Salt Spring Island, British Columbia. *The Canadian Geographer*, 55, 208-225.

Structure of Rural Tourism in Cowichan Valley Regional District, Vancouver Island, Canada

KANEKO Jun*, KIKUCHI Toshio**, TABAYASHI Akira***,

NIHEI Takaaki**** and WALDICHUK Tom*****

*Faculty of Law and Letters, Ehime University,

**Graduate School of Urban Environment Sciences, Tokyo Metropolitan University,

Professor Emeritus, University of Tsukuba, *Graduate School of Letters, Hokkaido University,

*****Faculty of Arts, Thompson Rivers University

Key words: rural tourism, farmers market, slow city, local, Vancouver Island